

Report

01

一般社団法人 北海道林産技術普及協会

北海道こども木工作品コンクールは、造形的作品部門、実用的作品部門など全4部門。毎年9月上旬締切、学校単位で応募を受け付けている。

旭川地域の林産関係者有志により立ち上げられた同協会は、平成25年度に設立60周年を迎えた歴史ある組織です。同協会の趣旨に賛同する会員は、木材加工関連企業を中心に165団体を数えます。

現在の事業内容は、月刊誌『ウッドエイジ』など刊行物の発行、会員と研究機関をつなぐ仲介対応などのほか、木材の利用拡大や木育の浸透を

〈北海道林産技術普及協会〉は、技術開発研究の拠点である北海道立林業指導所（現在の林産試験場[※]）の成果を指導・普及する組織として誕生。現在は林産試験場と一体となり地域と業界をつなぐ役目も担っています。

木材業界の有志が設立

人気イベントを
育てた
歴史ある組織

図るイベントの実施といった、林産技術の指導・普及にとどまらない幅広い活動を行っています。

好評の「木のグランドフェア」

多様な活動の中でも、平成4年から毎年開催している「木のグランドフェア」は、同協会と林産試験場共催の地域に根付いた人気行事です。フェアは3つのイベントで構成され、木を科学する実験・観察・見学が楽しめる19のコーナーで木と触れあってもらう「木になるフェスティバル」と、小学生の親子20組に用意した製材で自由

に工作を楽しんでもらう「木工作ひろば」の2つは、夏休み期間中にそれぞれ開催。日ごろできない体験や新しい発見を提供し、木や木材の良さを体感できる場となっています。

子どもが木に親しむ コンクール

3つめの「北海道こども木工作品コンクール」は、地域の注目度も高いメインイベントです。今年度は道内各地の小中学校から、前年度の約1・5倍にあたる463作品の応募がありました。子どもらしい独創的な造形から機能を吟味



した実用品まで甲乙付けがたい力作が集まり、毎年審査委員を悩ませています。

応募常連組の子どもたちは、上位入賞を目指し普段から工作に必要な枝や木の実を集めているといえます。同協会のコンクールは、子どもたちの関心を身近な樹木や森に向け、楽しみながら木々と親しむきっかけを創り出しています。

※正式名称は地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場



〈ニセウの森づくり運営委員会〉は、「森のお手入れ」という手法を取り入れたさまざまなイベントを通じ、コミュニティの再生と森の機能回復・維持を目指しています。

「コミモリ」で育樹&交流

同委員会は、東川町にあるキトウシ森林公園の生態系を回復させながら、子どもたち



に森の大切さを伝え、森から命の尊さを学んでもらうことを目的に、平成20年同町の有志により設立されました。活動場所はキトウシ森林公園内のニセウの森。樹木の手入れを通して人と人をつな



ぎ、相互扶助的なコミュニティを再構築する森「コミモリ」として整備された区画です。目的実現のため同委員会では、ただ森で遊ぶだけではなく、参加者が楽しみながら同時に森の手入れも進められるようなプログラムづくりに知恵を絞っています。

定例会「月に一度は森づくり」

活動のひとつ、「月に一度は森づくりinニセウの森づくり」は、その名の通りの月例イベント。(誰でも気軽に簡単に!)をコンセプトに、森で遊びたい

人やこれまで森に行くチャンスがなかった人など、子どもも大人も参加できます。

当日は、クラフト体験やホースセラピー、ニセウの森の森林調査など、月替わりでさまざまなメニューが用意され、まる一日森の中で活動します。なかでも「森のようちえん」は、子どもを自然の中で遊ばせたい家族連れに人気が高く、0〜1歳児をはじめ乳幼児の参加も多く見られます。

活動会員制度、今年度から始動

今年度からは会員同士のより密な交流を目指し、活動会員制度をスタートさせました。子どもと一緒に自然体験活動を楽しみたいファミリーや、自然志向の友だちがほしい転勤族など、会員の入会動機はさまざまです。自然の中で遊ぶスキルを求め、専門家と一緒に活動したいという会員も多く、アウトドアの専門的な分野についてはNGOや自然ガイドなど地域をよく知る方々と協働で活動を進めています。

02

ニセウの森づくり 運営委員会

Report

ニセウの森活動会員は約80名。種別は3種で、会費は個人会員500円、家族会員800円、団体会員2,000円。会員はイベント参加費が割引になる。